

## 平成15年度「特色ある大学教育支援プログラム」

## 採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	愛知大学	整理番号	1-1-005
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	中国現地重視の学部教育 (副題) 中国現地プログラムと中国現地研究調査		
申請単位	学部単位		
申請担当者	武田 信照		
(取組の概要)			
<p>愛知大学の最大の特色は中国に関する教育と研究である。その特色を更に強化し、前身校である上海・東亜同文書院大学の伝統の復活と現代への適応・発展をはかるため、平成9年4月に現代中国学部を新設した。そのキーワードは「中国」「現地主義」「伝統を踏まえた新たな発展」であり、21世紀の日中両国の架け橋となり国際的に活躍する人材を育成するため、特色ある教育を展開してきたが、その中の2つの柱が「中国現地プログラム」と「中国現地研究調査」である。</p> <p>第1の中国現地プログラム(必修)は、第3セメスターの4か月間、2年次生全員約200名が提携校の天津・南開大学に留学して、中国語を集中学習し中国文化を習得する。第2の中国現地研究調査(選択)は、第6セメスターの8月の3週間、中国の1都市を選んで、3年次生の希望者の中から選抜した約40名が中国語で調査を行い、その結果を中国人大学生を招待して中国語で報告し討論する。既に北京・上海・大連・昆明で実施した。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、愛知大学現代中国学部の教育目標である21世紀の日中両国の架け橋となり国際的に活躍できる心身ともに健全な優れた人材の養成を実現するために、愛知大学の理事会・評議員会の承認を得て、文部省の設置認可(平成8年)を受けた後、すでに5年にわたって組織的に実施されている取組であり、中国語・中国文化の現地での修得を達成するなど大きな成果を上げています。この取組は、中国現地プログラム(必修)と中国現地研究調査(選択)の2つにより、現地の大学等との提携を密にして実施しているところに優れた特色があり、英米等に自前の施設を設けた他の大学にも、相手方の文化的特性を考慮した取組として参考になる事例です。</p>			